

スポーツで実現する、 市民のウェルビーイング

実施背景

鹿屋体育大学は、鹿屋市との共同による地域密着スポーツブランド「Blue Winds」の創設など、地域一体型の大学スポーツ振興モデルを積極的に確立・推進してきた。同事業では、鹿屋市の地域課題に取り組むとともに、他地域に横展開可能な知見の獲得およびスポーツ振興モデルの確立を目指した。

目的(地域課題の解決など)

鹿屋体育大学は、鹿屋市の地域課題を詳細に分析している。代表的なものには、小中学生の体力の低迷、プロ・大学スポーツを会場で観戦する市民が少ないこと、30歳、40歳代の働き世代・子育て世代を中心としたスポーツ実施率が低いこと、健康寿命延伸のための運動プログラム等の市民からの需要があることなどが挙げられる。

職域からの運動・スポーツ実践モデル事業

職域からの運動・スポーツ実践モデル事業は、働き世代・子育て世代のスポーツ実施率向上、健康増進を目指し、令和4年10月5日から令和5年1月20日に実施された。鹿屋市内の協力企業および同大学職員、鹿屋市職員の延べ170名が参加した。成果としては、同事業で紹介されたフィジカルチェックによって、職域におけるケガのリスクが可視化・数値化され、参加者にとって身体に関心を持つきっかけになったことが挙げられる。

目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業

令和4年9月9日から令和5年1月23日にかけて実施された、目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業では、地域在住高齢者24名を対象に週1回、3ヵ月間の介護予防教室を実施した。タブレット等の機器の使用方法、情報発信・収集アプリの使用方法、フレイル(加齢に伴う筋力や心身の活力低下)予防の方法が指導された。介護予防教室は参加高齢者から非常に好評だった。同事業は今後も継続され、ICT活用による介護予防・フレイル予防プログラムを作成する予定だ。

結果と今後の展望

同事業は、複数の諸事業に別れているため、それぞれの結果は取り組まれた具体的な施策として記載されている通りだが、これら諸事業で取り組まれている内容はどれもこれからの日本が直面する社会問題とその施策の縮図である。よって、他地域に横展開可能な知見の獲得およびスポーツ振興モデルの確立として横展開が可能なものばかりだ。すでに民間企業と連携し、プログラムを確立し、さらなる普及を目指すことが予定されている諸事業もある。

協力・連携団体

- ・ 鹿屋市市民スポーツ課
- ・ 鹿屋市地域活力推進課
- ・ 鹿屋市教育委員会
- ・ 特定非営利活動法人ウェルスボ鹿屋
- ・ 株式会社スポーツリンクアンドシェア
- ・ 三井住友海上保険株式会社
- ・ 株式会社東急スポーツオアシス



担当者の声など詳細は
事業MOVIEをチェック！

取り組んだ具体的な施策

鹿屋体育大学による大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業は、4つの諸事業からその目的を達成しようとするものである。4つの諸事業とは、「子どもの運動プログラム(Exseed)指導者養成事業」、「語るスポーツ人材育成事業(スポーツを数字(データ)でカタルガ!)」、「職域からの運動・スポーツ実践モデル事業」、「目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業」である。

子どもの運動プログラム(Exseed) 指導者養成事業

子どもの運動プログラム(Exseed)指導者養成事業は、令和4年11月12日に行われた「Exseed指導者養成講座」を指し、鹿屋体育大学が普及を進めている小中学生の体力低迷の是正を目指した5分間のダンス運動「Exseed」の指導者養成システムを確立するものである。同講座では、筆記試験と実技試験による認定試験の講習内容を作成、実技試験の判定基準を作成、そして養成の仕組みを構築した。

語るスポーツ人材育成事業 (スポーツを数字(データ)でカタルガ)

語るスポーツ人材育成事業(スポーツを数字(データ)でカタルガ!)は、令和4年9月12日から23日までの計8回実施された。スポーツ取材や実況中継に携わってきた有識者を招聘し、大学スポーツ観戦の価値を数字(データ)で把握し、スポーツの言語化力を高める手法について学び、公式戦を対象にした実践プロジェクト型セミナー、および鹿屋市民をはじめとする地域住民を対象としたシンポジウムを実施した。セミナーに本学学生2名が受講、オンライン配信された実践プロジェクト型セミナーは最大76名が視聴し、シンポジウムに58名が参加した。結果として、セミナーを受講した同大学の学生がより高いスポーツの言語化能力を獲得し、スポーツをより魅力的に発信することができた。

